

切磋琢磨Ⅱ

校長室だより

R2.2.15 第39号

学校が変わる！いや、学校を変える！

家庭・地域とともに教育を！

これからの学校の在り方とは？

あと2カ月もすれば、新年度がスタートします。教育現場が大きく変化することは、以前より伝えてきましたが、学校ではこの変化に対応するだけの準備を進めなければなりません。そこで、この2カ月を「不易と流行」を視点に、新学習指導要領に合致した本校の教育のねらいを、もう一度教職員全員で確認・共有するための時期として取り組んでいきます。

＜「不易」（時代が変わっても変わらないもの）＞

★目ざす子どもの姿(子どもにわかる姿)

校訓「やさしい子」「考える子」「たくましい子」

学校では、徳・知・体のバランスの取れた子どもを育てることを目標にしています。そのためには、どのような取り組みや活動で、どのような手だてを講じて実行に移していくことが有効であるのかを考え、「計画」します。この目標は、これからも踏襲していきます。

＜「流行」（時代とともに変えていくべきもの）＞

行事(運動会や学芸会、修学旅行や野外教育活動等の宿泊的行事等)も、時代に合わせて変えていくべきものであると考えます。毎年あるからやるのではなく、この目ざす姿に向かうために必要な活動になっているのかという視点で、見直しをしています。来年度はこれからの10年間の教育がスタートします。時代の変化が著しいこれからの時代に、今までの教育スタイルでは、時代に対応した人材の育成は難しいという視点が今回の新しい教育課程にも盛り込まれています。教科書も新しくなり、教育課程も変わります。今が変革の絶好の機会です。「不易と流行」の視点で、二川小学校の児童の実態を捉え、来年度からの新たな教育活動に向けて、準備をしています。

学校評議員会開催（2／5）

学校の教職員の視点だけではなく、外部の目や評価をいただくために、教育活動アンケートをもとに、学校評議員会を開催しました。最初に授業参観を



していただき、その後学校の一年間の取り組みや教育アンケート結果をもとに行った学校評価について、評価とご助言をいただきました。

ご意見を一部、下記に載せます。

- ・学年が上がるに従い成長している姿が見られた。
- ・「自己肯定感を高める」という思いが、教育活動に浸透している。大人も頼れる存在でありたい。
- ・保育園や幼稚園でも、主体性や自主性を伸ばす保育や教育をすすめている。自己肯定感の低い子に対して、どういう支援をしたらよいか課題である。
- ・1年生の「昔あそび」に参加して、元気よく遊んでいる児童の姿を見た。これは昔も今も変わらないもの。
- ・自己肯定感とは、一人一人が自信をもって認められる存在であること。それが個々の確立になるという学校教育の基本と合致する。
- ・アンケート結果から、保護者と教職員の格差が見られるものがある。同じ方向で、一緒に子育てをしようとする意識を高めていく必要がある。
- ・担任と保護者の連携状況はどうか？きめ細かな説明ができていくかどうか。接点があるかどうかを考える必要がある。
- ・学校だけで子どもを教育する時代ではない。家庭ともちろん地域も一緒になって、学校の先生方と子どもを育てるという意識をもてるようにしたい。
- ・学校だけで諸課題を解決していくことは難しい。先生達は本当に一生懸命にやっている。だからこそ、自治会も関わっていかないとけない。

※学校評価につきましては、3月発行の「学校新聞40号」に掲載予定です。